FUJIFILM
I&I－Imaging & Information

FUJIFILM NEWS

株主のみなさまへ

JUNE 2002 vol.62

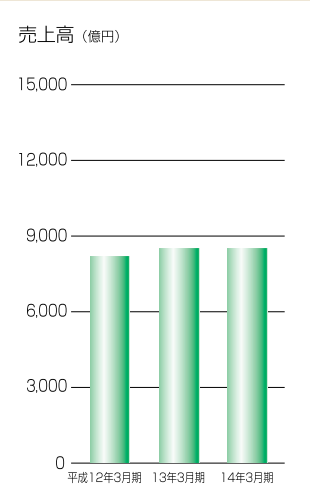
財務ハイライト

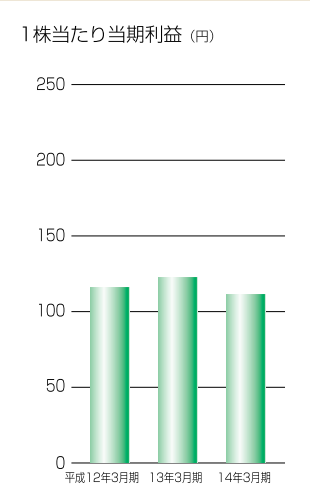
単位：百万円（1株当たり当期利益は除く）

	単独		連結	
	平成14年3月期	平成13年3月期	平成14年3月期	平成13年3月期
売上高	847,747	849,154	2,401,144	1,383,369
経常利益	100,688	110,831	159,549	199,661
当期利益	57,160	63,145	81,331	117,900
1株当たり当期利益(円)	111.08	122.70	158.05	229.11
資産合計(年度末)	1,656,150	1,650,460	2,946,362	2,830,313
資本合計(年度末)	1,433,315	1,397,211	1,698,063	1,624,856

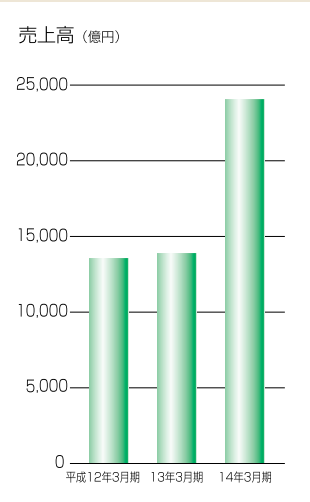
注）1. 連結業績の表示は、経常利益が税引前利益、当期利益が当期純利益となります。
2. 当期より、連結損益計算書におきまして、販売促進費等の一部を売上高より控除しております。これにより、連結業績におきまして売上高と販売費及び一般管理費が、前期及び当期でそれぞれ570億円、663億円減少しておりますが、いずれの年度におきましても当期純利益への影響はありません。
3. 前期まで、「資産の部」の有価証券に計上しておりました自己株式は、当期より資本に対する控除項目として「資本の部」に記載しております。
4. 前期の連結業績は、当期の表示方法にあわせて組替再表示しております。
5. 当期の連結業績の税引前利益及び当期純利益が前期に比べ大きく減少しておりますのは、前期に一過性の退職給付信託設定益（税引前で561億円、税引後で325億円）が含まれておりますためです。
6. 当社は、平成13年3月末に富士ゼロックス(株)の発行済株式の25%を追加取得いたしました。その結果、当社の出資比率は75%となり、同社は連結子会社となりました。同社グループの財務諸表は、前連結会計年度につきましては、当社の連結貸借対照表では直接連結、連結損益計算書では持分法(50%)で処理いたしましたが、当連結会計年度より連結損益計算書におきましても直接連結としております。

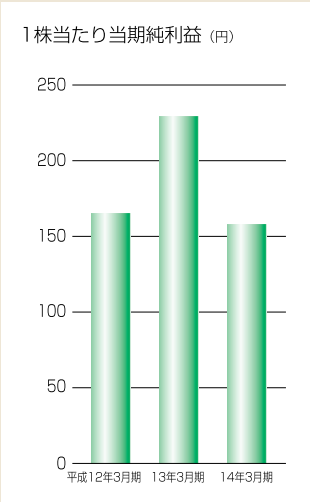
■ 単独





■ 連結





表紙写真／竹内敏信撮影　尾瀬ヶ原（群馬県片品村）

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、平成14年3月期(平成13年4月1日より平成14年3月31日に至る)における我が国経済は、緩やかなデフレ状態が継続する中、個人消費の低迷、民間設備投資の減少など、一段と景気の後退感が強まりました。海外におきましては、米国経済は同時多発テロの影響が深刻化する中で景気後退が一層進みましたが、後半には回復の兆しも見せて推移してきています。欧州経済はユーロ圏を中心に減速感が強まり、アジア諸国の経済も中国等を除いては減速傾向が見られました。

このような状況下、富士フイルムグループは、イメージング、インフォメーション、ドキュメントの各分野で、デジタル技術・ネットワーク技術を活用したトータルソリューションの提供を積極的に展開しております。具体的には、小型デジタルミニラボの市場導入、中国市場におけるデジタルカメラ等の生産・販売拠点の拡大、米国の印刷関連事業における販売体制の強化、液晶電子ディスプレイ用部材の生産能力の増強、複写機器事業における新技術を採用した新製品導入等、事業領域の拡大に努めました。

当期の売上高は単独で8,477億円、連結では富士ゼロックス株式会社が連結子会社となったこと及び為替が円安で推移したことにより2兆4,011億円となりました。利益につきましては、単独の経常利益は1,006億円、当期利益は571億円、連結の税引前利益は1,595億円、当期純利益は813億円となりました。

当期末配当金につきましては、1株当たり12円50銭(当中間配当金と合わせ25円)に決めさせていただきました。

次に連結売上高の部門別の状況をご説明させていただきます。イメージング ソリューション部門においては、カラーフィルムでは、高感度・高付加価値戦略を進め、世界で初めて「第4の感色層」を搭載した35mmフィルム「SUPERIA」とAPSフィルム「nexia」の拡販に努めました。フィルムカメラでは35mmカメラ「Silvi」シリーズ、APSカメラ「nexia」シリーズの新製品を発売し、ラインアップの充実を図りました。デジタルカメラでは、「スーパーCCDハニカムIII」搭載モデル「FinePix F601」等、魅力ある新製品を発売しております。また、ラボ機器では、コンパクトな「デジタルミニラボ フロンティア330」を新発売し、好評の「フロンティア」シリーズを拡充することにより、デジタルカメラやインターネットからの写真プリントを拡大させるべく、インフラ整備に努めております。

インフォメーション ソリューション部門においては、印刷システム関連製品では、CTP(コンピュータ・ツー・プレート)システム及びオンデマンド印刷システムをはじめとしたソリューションビジネスを強力に推進いたしました。医療診断用製品では、小規模医療機関向けのコンパクトなデジタルX線画像診断システム「FCR Pico SYSTEM」がご好評をいただき、売上を伸ばしております。産業用材料製品では、液晶電子ディスプレイ用視野角拡大フィルム「ワイドビューフィルム」が引き続き大きく売上を伸ばしました。記録メディア製品では、高密度・大容量のデータストレージ需要の拡大に応えるため、大容量バックアップテープ「LTO Ultrium 1」等の拡販を積極的に行いました。

ドキュメント ソリューション部門においては、カラーの商品力を飛躍的に高める新開発の次世代トナー「乳化重合凝集法トナー(EAトナー)」を採用したデジタルカラー複合機「DocuCentre Color 400 CP / 320 CP」が、発売開始から好調な販売となり、カラー機の販売増に大きく寄与しました。また、既存機のコピー/プリント出力量の増大による消耗品・保守サービス等の売上成長に加えて、中国市場におけるドキュメント事業の立上げと日本電気株式会社及びその子会社で行なっていたレーザープリンター事業を取得したことにより、売上を伸ばしております。

当社を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続くものとみられますが、経営基盤のさらなる強化を図り、先進技術を駆使したトータルソリューションの提供を積極的に展開してまいります。また、研究開発・生産・販売・サービスの強力なネットワークを構築し、富士フイルムグループ一体となって競争力の強化と成長を目指してまいる所存です。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年6月

代表取締役会長　大西 實

代表取締役副会長　宗雪雅幸

代表取締役社長　古森重隆

特集

新世代キーデバイス「スーパーCCDハニカムⅢ」搭載

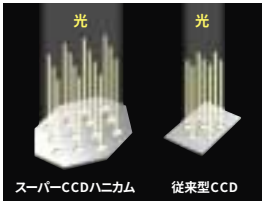
新FinePix

富士フイルムは、独自技術による高画質でユーザーに圧倒的に支持されているデジタルカメラ「FinePix」のキーデバイス「スーパーCCDハニカム」を飛躍的に進化させた新世代「スーパーCCDハニカムⅢ」を開発。新CCDを搭載し、デジタルカメラの楽しさを大きく拡げた新製品「FinePix F601」「FinePix S602」「FinePix S2 Pro」を新発売しました。

高感度と超高画質を両立させた先進のテクノロジー「スーパーCCDハニカムⅢ」

写真フィルムの世界で高感度と高画質という相反する要素を両立させ、高感度でも超微粒子の美しい写真を実現してきた富士フイルム。今回の新技術は、デジタルカメラの世界でも撮影感度を上げると同時に、よりよい画像を提供することを目的としたもので、「撮る」「見る」「楽しむ」のデジタル・フォト・エンタテインメントの世界を大きく拡げました。

「スーパーCCDハニカムIII」の大きな特長は、光を効率的に集めるCCDや高速画像処理を可能にする専用LSIなどを大幅に改



■ハニカム画素の大型化
同一サイズの従来型CCDと比べ、画素を飛躍的に大型化し、画素形状も四角形から八角形にすることで効率よく光を受け、高画質化を実現します。

DIGITAL CAMERA FinePix F601

DIGITAL CAMERA FinePix S602

DIGITAL CAMERA FinePix S2 Pro

スピードスナップ

超高速シャッターで手ブレの心配がなく、一瞬のシャッターチャンスも逃しません。

良し、ISO1600までの高感度撮影と美しい画質をともに実現したことです。新開発した2つのキーテクノロジーにより、CCDの感度を向上させ、画質劣化の原因となるノイズを低減しました。このため、静止画はもちろん、動画でも高感度かつ高品位な撮影を楽しむことができます。

ハイスペックと快適操作、最高画質を実現した新 FinePix

新製品3機種は、これまでのデジタルカメラをさらに高機能化・小型化し、操作も簡単で撮影の楽しさが倍増します。

「FinePix F601」「FinePix S602」は、ろうそくの薄明かりの中でも目で見たそのままの美しさを撮影できる「キャンドルショット」、動きの速い被写体も確実に捉える「スピードスナップ」、動画撮影はもちろん、動画の1コマ1コマをハイクオリティな静止画としても楽しめる「モーションフォト」など、さまざまなシーンで高画質画像が楽しめます。

「FinePix S602」は、光学6倍ズームレンズと多彩なマニュアル撮影機能を搭載し、一眼レフカメラ並の操作感が味わうことができます。「FinePix S2 Pro」は、先に発売した「FinePix S1 Pro」よりも有効画素数、記録画素数とも2倍となり、デジタル一眼レフカメラ最高画質を誇ります。いずれも、デジタルカメラの表現領域を拡げた新世代機として高い評価を得ています。

キャンドルショット

ISO1600までの高感度設定が可能で、薄明かりの中でも雰囲気を生かして撮影できます。

ISO160　ISO200　ISO400　ISO800　ISO1600

モーションフォト

フルフレームでなめらかな音声付き動画撮影を実現。静止画として切り出した1コマも高画質です。

The 2001 Walter Kosonocky Award

CCDなどの固体撮像素子に関する権威ある賞「ウオルター・コソノキー賞」を、「スーパーCCDハニカム」についての研究論文が受賞しました。日本で同賞を受賞したのは、これが初めてです。「スーパーCCDハニカム」の技術に、世界中が注目しています。

【ウオルター・コソノキー賞】
CCDイメージセンサーの発明者である故ウオルター・コソノキー氏の功績を記念して創設。選考は、この分野の世界的権威15名で構成される委員会で行われ、固体撮像素子に関する論文のうち最優秀論文を隔年で表彰しています。

close-up

オフィスのカラー化を推進する

新世代デジタルカラー複合機
DocuCentre Color 400CP/320CP

カラー専用機からカラー／白黒複合機へ。文書のカラー化を特別とする時代から、日常あたりまえに使いこなす、より高付加価値なビジネスワークを追求する富士ゼロックス。その牽引役となっているのが、新世代デジタルカラー複合機「ドキュセンターカラー400CP / 320CP」です。高画質と環境負荷の低減を両立させた新世代「EAトナー」を採用し、オフィスのカラー需要に応える差別化商品として高い評価を得ています。

注1)EA(Emulsion Aggregation)トナー:乳化重合凝集法トナー。
注2)デジタルカラー複合機:コピー・プリント機能をベースに、オプションでネットワークスキャナーやファックス機能、電子ソートなどが装備できます。

■カラー文書を手軽に扱える環境を実現

パソコンやインターネットの普及で、オフィスではカラーによる情報のやりとりが増え、社外向けの企画書などはもちろん、社内資料もカラー化が急速に進んでいます。

富士ゼロックスは、お客様の潜在的なカラー需要を掘り起こし、白黒機からの代替を促進するための高付加価値なデジタル複合機の開発に注力してきました。「ドキュセンターカラー400CP/320CP」は、そうした条件を満たす新しいコンセプトの商品として、画質、スピード、生産性、本体価格を独自技術とコスト低減によって解決し、高品質なカラー文書をモノクロ並に手軽に扱える環境を実現しました。

昨年12月の発売以来、その価値が認められ、既存のお客様を中心に白黒機からの代替が進んでおり、市場をリードするヒット商品になっています。そして、その最大の特長ともいうべき高画質性能と環境負荷の低減を支える技術が「EAトナー」です。

■印刷に近い高画質で CO_2 の排出を35%も削減

EAトナーの特長は、その製法にあります(図1)。従来のトナーと比べ、粒子の形状や大きさが均一で、5.8ミクロン(1ミクロンは1000分の1ミリ)と極小のため、印刷に近い精細な画質を実現しました。また、粒子中にワックス粒子を混合することで、これまでトナーの定着に不可欠だったオイルを使わずに済み、ムラのない薄く均一な転写を可能にしました(図2)。

その効果で、スミ文字はテカリを抑えて一層読みやすく、写真やグラフも色鮮やかで自然な色で出力できます。出力用紙も、普通紙や表目の粗い安価な紙でも良好な画像品質が得られます。さらに、ボールペンでの書き込みや付箋紙の張り込みも容易で、カラー文書の利用価値を高めました。

EAトナーのもう一つの大きな特長は、環境配慮型の新世代トナーであることです。

2001年9月に竣工したEAトナーの製造拠点「富士ゼロックス イメージング マテリアルズ(株)」(富山県滑川市)

従来のトナーのように、粉砕処理や粒子の大きさを揃える工程が必要なくなるため、製造プロセスにおけるCO_2の排出量を35%削減することができます(図3)。また、用紙への転写効率が高いことから、使用時のトナー消費量を大幅に抑制でき、廃棄トナー量も僅かでロスを削減します。

■ EAトナー搭載機を幅広いお客様へ

「ドキュセンターカラー400CP/320CP」は、従来の白黒機にカラー機能を付加するという新しいコンセプトの戦略商品であり、白黒機より付加価値が高く、収益力の高い商品として業績向上にも寄与しています。

今後、オフィスのカラー化がますます浸透していくことは確実なことから、富士ゼロックスではより一層のシェア拡大をはかってまいります。そのため、次世代のカラーレーザープリンター、デジタル複合機にEAトナーを順次搭載してユーザー層の裾野を広げ、近い将来、全機種に採用する予定です。

図1:トナーの製法の比較

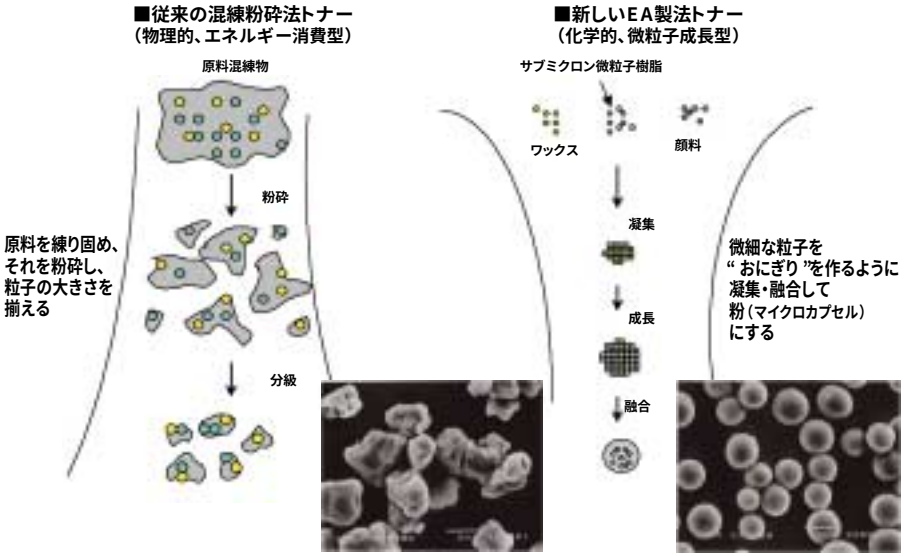


図2:トナーの特長の比較

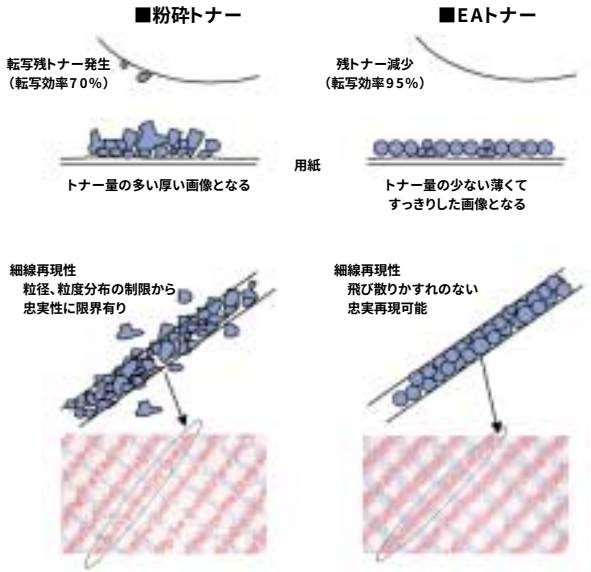
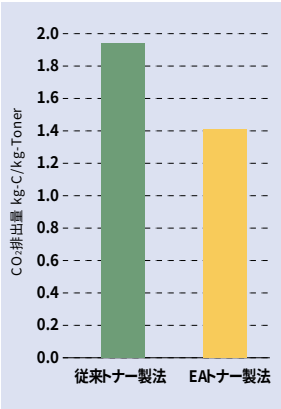


図3:CO_2排出量の比較



2002FIFAワールドカップ™のオフィシャルスポンサーとして大会の盛り上げに協力

韓国「ソウルワールドカップ競技場」での開幕式。

日本（写真上）と韓国（写真下）、各10会場で高品質で迅速なラボサービスを提供しています。

世界最大のスポーツイベント、2002FIFAワールドカップ™が日韓20都市の会場で開催中です。アジアで初の開催となるW杯の成功に向けて、富士フイルムはラボサービスをはじめ、国内外で販促、PR活動を積極的に展開し、スタジアムやテレビで観戦する世界中の人々にFUJIFILMを強く印象づけています。

日本での開幕戦は「新潟スタジアム-ビッグスワン」でのアイルランド vs カメルーン戦。ゴール後方とピッチサイドの看板で「FUJIFILM」のロゴを世界中の方にPRしました。

高品質で迅速なラボサービスを提供

オリンピックを凌ぐ規模と熱狂で知られるFIFAワールドカップ™。5月31日の韓国・ソウルでの開幕戦から6月30日の横浜での決勝戦まで、約300万人がスタジアムを訪れ、延べ400億人を超える人々がテレビ観戦すると予想されています。

富士フイルムは、1982年のスペイン大会から、FIFAワールドカップ™のスポンサーとして、さまざまな面で大会をサポートしています。スタジアム内では、世界中の報道カメラマン向けにラボサービスを提供し、大会運営に貢献してきました。今大会はアジア初、加えて日韓2カ国開催という史上初のケースで、当社としても初めての試みですが、日韓協力のもと、高品質で迅速なサービスで好評を得ています。

各種キャンペーンやPRを展開

当社は、抽選で観戦チケットが当たる各種キャンペーンを、日韓およびサッカー人気が高いヨーロッパ等で展開し、商品拡販に成果を上げました。さらに、日本において決勝戦が行われる横浜国際総合競技場の最寄駅、横浜市営地下鉄「新横浜駅」を中心に、富士ゼロックスと共同で駅構内の柱や壁面の至る所に看板を掲出しています。さらに、FUJIFILMのシンボルである飛行船

会期中、全国４都市で開かれた速報写真展（写真は東京駅八重洲中央口）に大勢のサッカーファンが訪れています。

横浜市営地下鉄「新横浜駅」に掲出した看板。「新横浜駅」がワールドカップ一色に染められました。

新横浜駅前「飛行船型広告物」

世界の有名選手と同じフィールドに立ち、写真におさめる子供たち。日韓全 64 試合で実施しています。

型広告物を新横浜駅前に設置し、大会を盛り上げています。

一方、韓国富士フイルム（KFF）でも、ソウル市内の地下鉄や地方の開催都市を運行するバスに当社看板を約 1,000 枚掲げてオフィシャルスポンサーをアピールしたほか、キャンペーンを支援するテレビ CM や新聞広告を大々的に実施しました。

朝日新聞と「速報写真展」を実施

大会スポンサーである富士フイルム、サプライヤーである朝日新聞社が協力して、全国4カ所で展開しており、朝日新聞社が熱戦の模様をデジタルカメラで撮影、当社のデジタルプリント技術で即時に出力し、試合の感動を多くのサッカーファンにいち早くお伝えしています。

また、今大会から、子供たちにサッカーの感動を写真を通して体験してもらう「フィールドカメラマン」を実施中です。これは、少年少女が試合開始前にフィールドに上がり、出場チームの様子やスタンドの応援風景を写真撮影するもので、参加した子供たちに大きな感動と夢を与えています。

こうした国内外での一連の活動を通して、当社のイメージアップと FUJIFILM ブランドの浸透に多大な成果を上げています。

富士ゼロックスも オフィシャル スポンサーとして協力

富士フイルムのグループ会社、富士ゼロックスも、今大会にオフィシャルパートナーとして協賛し、プリンター/複写機/ファクシミリの公式スポンサーとして、世界中から訪れるプレスや日韓のワールドカップ組織委員会に対して、運営上の必需品であるデジタル複合機「DocuCentre（ドキュセンター）」シリーズやカラーレーザープリンターなどの機器を計 2,000 台以上提供する等、大会を力強くサポートしています。

出力機貸出／24 時間サポートサービス

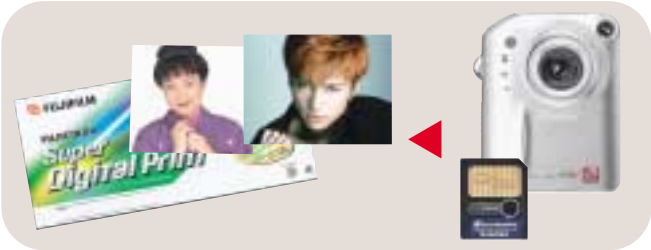
HOT NEWS

デジカメ撮ったら、写真にしよっ。だって、思い出が色あせない。
FUJICOLOR デジカメプリント CMやキャンペーンを展開

デジタルカメラの急速な普及に伴い、デジタルカメラからもフィルムと同じように“写真”にしたい、というお客様のニーズが日増しに高まっています。富士フイルムは、①デジタルカメラからもネガフィルムからの同時プリントと同じようにフジカラーのお店で簡単に写真にできること、②画質(品質)が極めて高く、一般的な家庭用プリンターのプリントよりも長期保存が可能(※)なこと、をもっと認知していただくことを目的に新CMを放映しました。さらに、4月1日から6月16日までの間、デジカメプリントの美しさを実感していただくための体験キャンペーンをフジカラーのお店の店頭とインターネットでそれぞれ展開しました。

(※)平成13年10月時点。米国IPIテストによる

FUJICOLOR
デジカメプリント



男女を問わず幅広い層に圧倒的な人気を得ているアーティストGackt（ガクト）さんをイメージキャラクターとして新たに迎え、樹木希林さんとの新コンビでキャンペーンを盛り上げました。

新製品

デジタルカメラの画像をご家庭でプリント デジタルプリントシステムの新ブランド「Printpix(プリンピックス)」製品第一弾
「Printpix CX-400」

デジタルカメラ市場の急拡大に伴い、撮影した画像をご家庭で簡単にプリントしたいというニーズが急速に高まりつつあります。「Printpix CX-400」は、用紙自体が発色することで高画質カラープリントが得られるプリンピックス方式の家庭用デジタルフォトプリンターです。今回、新開発サーマルヘッドにより、大幅な画質アップと高速プリントを実現。また、新開発の専用ロールペーパー「Printpix Digital Photo Paper RL-SD40」を採用することで、白色度、光沢、色再現性および画像保存性が飛躍的に向上するとともに、Lサイズ(フチなし)はもちろん、カードサイズからハイビジョンサイズまでマルチサイズプリントが可能となりました。

Printpix

2002FIFAワールドカップ™公式インスタントカメラ
背景もキレイに写る「iフラッシュ」と
セルフタイマーを搭載
instax mini 30「チェキi」

「撮ったその場で、きれいなカラー写真ができる」と大変ご好評をいただいているカードサイズ写真インスタントカメラ「チェキ」の新モデルで、背景もキレイに写る新機能「iフラッシュ」と、仲間同士の撮影にも便利なセルフタイマーを搭載。若い女性層を中心に大人気のinstax mini 20「チェキ」、お手頃価格で高画質のinstax mini 7「チェキ ポップ」と合わせ、3つのラインアップでインスタント写真の楽しさをさらに拡げていきます。

なお、「チェキ」シリーズは、2002FIFAワールドカップ™の公式インスタントカメラで、サポーター同士の交流やFIFAの公式イベントでもコミュニケーションツールとして大活躍しています。

富士ゼロックスのドキュプリントシリーズ
CPUを高速化し、1枚目のプリント時間を短縮
DocuPrint C2221

毎分22枚出力できる高速・高画質カラープリンター「DocuPrint C2220」(2001年1月発売)のCPU(コンピューターの中央処理装置)を高速化し、1枚目のプリントアウト時間をカラー13.5秒、モノクロ10.5秒(いずれもA4サイズ・ヨコ)に短縮。「DocuPrint C2220」と比較し、約12%の生産性向上を実現しました。同時に、従来のロール式定着器では数分かかっていたプリント開始までのウォームアップタイムを45秒以下に短縮しており、省エネルギーで高い生産性を発揮します。

さらに、オプションのメモリー(256MB)を装備することで、297mm×900mmの長尺用紙へのプリントも可能で、店頭のポスターやPOP(店頭広告)に活用できます。

TOPICS

小田原工場で「ワイドビューフィルム」新ライン稼働

パソコンのモニター画面が、CRT(ブラウン管)からLCD(液晶ディスプレイ)に移行していること等を背景に、富士フイルムの液晶電子ディスプレイ用視野角拡大フィルム「ワイドビューフィルム」が売上を倍増ペースで拡大しています。

長期的にも高い成長が見込めるため、当社は供給能力の見直しを行い、関連設備の新・増設を進めてきました。2001年11月には、小田原工場にワイドビューフィルムの第3工場が完成、既存施設も含め、生産能力は倍増しました。さらに、旺盛な市場ニーズに応えるべく、第4工場を新設するとともに既存工場の能力拡大を図り、2003年10月を目処に、生産能力を現在の3倍に引き上げていく計画です。

より見やすく、視野角を拡げるワイドビューフィルム　左：ワイドビューフィルム　右：偏光板のみ

全国各地に広がるリバーサルの仲間 FUJICHROME CLUB

「旅先で美しい風景写真を撮りたい」「手作りのものを写真に残したい」などのきっかけから、色鮮やかで高画質のリバーサルフィルム(スライド用フィルム)を使って写真を始める方が増え、シニア層を中心に若い女性の間でも人気を呼んでいます。

全国各地のフジカラー総合ラボが主体となって運営しているフジクロームクラブ(略称FCC、会員数約2万7千名)も、趣味の写真を楽しむメンバーの集まりとして盛んに活動しています。昨春には各FCC事務局の紹介や四季折々の撮影地情報を満載したホームページも立ち上げ、毎月、1万2～3千件のアクセスがあります。また、全国的なイベントとして年に一度、6月1日の「写真の日」に希望者全員参加型の写真展「FCCフォトフェスティバル」を各地で開催しているほか、今年から春・秋に会員誌を発行し、作品発表の場を提供しています。写真をさらに究めたい方、リバーサルプリントを始めたい方は、ぜひこの機会にご参加ください。

各地のFCCでは個別に撮影会や写真教室を実施しています。写真は幕張海浜公園での撮影会。

「FCCフォトフェスティバル」の募集チラシ

FCCサポートセンター
TEL.03-3567-2296

FCCのホームページ
http://club.fccnet.ne.jp/

地球と人類の「持続可能な発展」をめざして

新環境方針「富士フイルムグループ グリーン・ポリシー」

富士フイルムは、2002年度からの新しい環境方針「富士フイルムグループ グリーン・ポリシー」を制定しました。従来は、環境施策の基本スタンスを「レスポンシブル・ケア（環境保全・安全を確保する自主管理活動）」の充実に置いておりましたが、新環境方針ではその考えをさらに発展させ、地球と人類全体の課題である「持続可能な発展」をキーコンセプトに、より広い視点から地球環境の維持・改善に富士フイルムグループを挙げて取り組む姿勢を表明しました。

【基本方針】
「持続可能な発展」は21世紀の地球と人類にとって最重要課題である。環境の維持・改善がその基本であり、企業にとっても経営の根幹をなす。世界の富士フイルムグループ各社は、環境諸課題に対する確実で一歩先行した取り組みにより、企業体質・製品・サービスにおける高い環境品質を実現することで顧客満足を達成し、環境、経済、社会の三つの側面で総合的にプラスとなる経営をめざす。

富士フイルムグループは、上記の基本方針に則り、環境中・長期計画として具体的に以下のような重点目標に取り組んでまいります。

○リデュース・リユース・リサイクル等を考慮した環境配慮設計を全分野の製品に適用
○炭酸ガス（CO_2）をはじめとした地球温暖化ガス等、排出量の継続的な削減
○化学物質管理のさらなる強化
○グリーン購入・グリーン調達の推進
○ISO14001環境マネジメントシステムのさらなる強化

など

第41回「富士フイルムフォトコンテスト」ネイチャーフォト部門　金賞受賞作品

財務諸表

単独

■貸借対照表

単位：百万円（単位未満切り捨て）

科目	平成14年3月期	平成13年3月期
(資産の部)		
流動資産	540,057	626,397
固定資産	1,116,093	1,024,062
資産合計	**1,656,150**	**1,650,460**
(負債の部)		
流動負債	173,959	198,208
固定負債	48,875	55,040
負債合計	**222,835**	**253,248**
(資本の部)		
資本金	40,363	40,363
法定準備金	69,071	69,071
剰余金等	1,323,881	1,287,776
資本合計	**1,433,315**	**1,397,211**
負債及び資本合計	**1,656,150**	**1,650,460**

■損益計算書

単位：百万円（単位未満切り捨て）

科目	平成14年3月期	平成13年3月期
売上高	847,747	849,154
営業利益	95,083	101,683
経常利益	100,688	110,831
税引前当期利益	93,713	106,713
当期利益	57,160	63,145
当期未処分利益	66,237	72,521

■利益処分計算書

単位：百万円（単位未満切り捨て）

科目	平成14年3月期	平成13年3月期
当期未処分利益	66,237	72,521
配当金	6,431	5,789
役員賞与金(監査役賞与金を含む)	89	94
海外投資損失積立金	△13	△13
特別割増償却積立金	△40	174
資産買換差益積立金	△29	△31
別途積立金	44,000	51,000
次期繰越利益	15,799	15,509

連結

■貸借対照表

単位：百万円

科目	平成14年3月期	平成13年3月期
(資産の部)		
流動資産	1,389,246	1,419,814
投資及び長期債権	442,956	387,723
有形固定資産及びその他の資産	1,114,160	1,022,776
資産合計	**2,946,362**	**2,830,313**
(負債の部)		
流動負債	720,797	807,855
固定負債	397,036	277,067
少数株主持分	130,466	120,535
(資本の部)		
資本金	40,363	40,363
法定準備金	68,135	68,135
その他の剰余金等	1,589,565	1,516,358
資本合計	**1,698,063**	**1,624,856**
負債及び資本合計	**2,946,362**	**2,830,313**

■損益計算書

単位：百万円

科目	平成14年3月期	平成13年3月期
売上高	2,401,144	1,383,369
営業利益	168,682	149,732
税引前利益	159,549	199,661
当期純利益	81,331	117,900

注）1. 当期より、連結損益計算書におきまして、販売促進費等の一部を売上高より控除しております。これにより、連結業績におきまして売上高と販売費及び一般管理費が、前期及び当期でそれぞれ570億円、663億円減少しておりますが、いずれの年度におきましても当期純利益への影響はありません。
2. 前期まで、「資産の部」の有価証券に計上しておりました自己株式は、当期より資本に対する控除項目として「資本の部」に記載しております。
3. 前期の連結業績は、当期の表示方法にあわせて組替再表示しております。
4. 当期の連結業績の税引前利益及び当期純利益が前期に比べ大きく減少しておりますのは、前期に一過性の退職給付信託設定益(税引前で561億円、税引後で325億円)が含まれておりますためです。
5. 当社は、平成13年3月末に富士ゼロックス(株)の発行済株式の25%を追加取得いたしました。その結果、当社の出資比率は75%となり、同社は連結子会社となりました。同社グループの財務諸表は、前連結会計年度につきましては、当社の連結貸借対照表では直接連結、連結損益計算書では持分法(50%)で処理いたしましたが、当連結会計年度より連結損益計算書におきましても直接連結としております。

株主と株式の概況

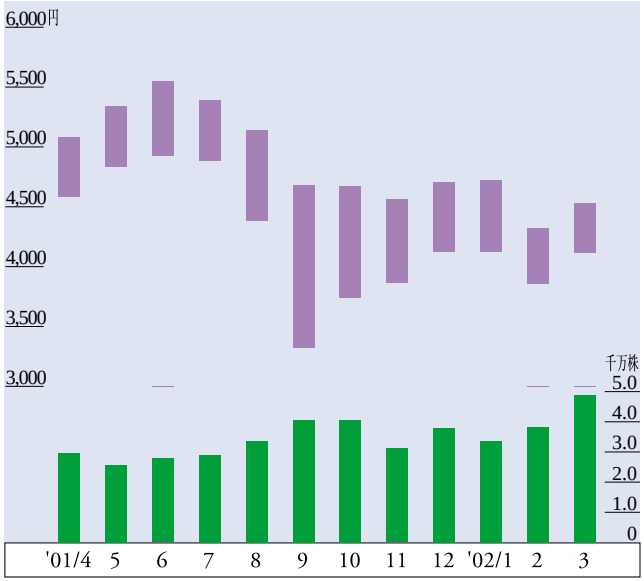
■株式の状況

	平成14年3月期	平成13年3月期
株主数	27,382名	27,904名
発行済株式数	514,626千株	514,626千株

■所有者別分布 (株式数と比率)

	平成14年3月期	平成13年3月期
金融機関	242,785千株(47.2%)	252,232千株(49.0%)
証券会社	2,432千株(0.5%)	1,753千株(0.3%)
その他法人	20,537千株(4.0%)	21,496千株(4.2%)
個人・その他	44,910千株(8.7%)	46,787千株(9.1%)
政府・地方公共団体	0千株(0.0%)	0千株(0.0%)
外国法人等	203,962千株(39.6%)	192,358千株(37.4%)
計	514,626千株(100%)	514,626千株(100%)

■株価 (高値・安値)及び株式売買高の推移



株価及び株式売買高は、東京証券取引所におけるものです。

■ 株価
■ 株式売買高

会社概要

- ●設立　昭和9年1月20日
- ●資本金　40,363百万円(平成14年3月31日現在)
- ●従業員数　9,736名
- ●本社　神奈川県南足柄市中沼210番地
- ●東京本社　東京都港区西麻布二丁目26番30号
- ●大阪支社　大阪市中央区備後町三丁目5番11号

インターネットで当社に関する情報がご覧になれます。
URL http://www.fujifilm.co.jp/

株主メモ

- ●決算期　3月31日
- ●定時株主総会　6月下旬
- ●公告掲載新聞　日本経済新聞
- ●名義書換代理人　UFJ信託銀行株式会社
- ●同事務取扱所

UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
東京都江東区東砂 7-10-11 〒137-8081

照会先
株式の各種お手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の電話およびインターネットで24時間承っております。
受付フリーダイヤル 0120-24-4479(本店証券代行部)
0120-68-4479(大阪支店証券代行部) } 自動応答
URL http://www.ufjtrustbank.co.jp/

- ●同取次所

UFJ信託銀行株式会社　全国各支店
野村證券株式会社　全国本・支店

(告知)当社は今期より決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ《http://www.fujifilm.co.jp/》に掲載することといたしました。

単元未満株式の買取請求について
単元未満株式(1株から999株の株式)の買取請求(ご売却)については、上記の事務取扱所・取次所でお取扱いたしております。

FUJIFILM
富士写真フイルム株式会社
〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30　電話(03)3406-2111(代表)

FUJIFILM
I&I–Imaging & Information

FUJIFILM DIGITAL IMAGING FDi

デジカメ撮ったら、写真にしよっ。

Gackt

だって、思い出が色あせない。

FUJICOLOR
デジカメプリント

www.fujifilm.co.jp/fdi/